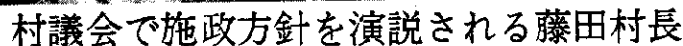


なかせと

カッコ内は前月との比較



昭和三十七年度の国の予
公債政策を積極的に活用
社会資本の整備を促進する
財源の重点的且効率的な

対する関心度の高さが感じられました。

中里村長 藤田 五郎

展を期することを基本とするのであります。

このような国の予算編成を基本として、わが中里村においても新年度の予算編成を次次第であります。

国の地方財政計画について予測が困難なる点も多々けれども、国庫その他機関の、適確なる指導すると共に、地域の実情を十分して、財政の健全性を確保する、村民各位の期待に応へる、村民各位の期待に應へる軽減と、計画的なる行進の向上を図るため、行政標準の向上を図るために亘つてその簡素化を図り来以上に経費の合理化と重策を行つて、増加する一般を、住みよい環境づくりの事業に重点的に投入するものにと致しました。

村が実施する各種建築事

方針の説明◇
長 藤田 五郎

の定例会に基本構想を提出しましたが、継続審議となり、十月十一日の臨時議会で議決されましたので、今回総合計画（基礎調査）と、基本構想基本計画を配布致しまして皆様に報告申し上げる次第であります。その概要について申し上げますと、

今日市町村の行政をめぐる情勢は、社会経済の発展に伴い、住民の日常生活及び経済圏の拡大、大都市への産業人口の集中や過密過疎問題の発生更には住民の行政に対する要望の多様化、高度化等激しい変動期にあることが察知されるのであります。

これら諸情勢に対応して限られた財源の中で、行政水準の高度化と、住民福祉の向上を図るためには、場あつた行政で

（次ページにつづく）

の定例会に基本構想を提出しましたが、継続審議となり、十月十一日の臨時議会で議決されましたので、今回総合計画（基礎調査）と、基本構想基本計画を配布致しまして皆様に報告申し上げる次第であります。その概要について申し上げますと、

今日市町村の行政をめぐる情勢は、社会経済の発展に伴い、住民の日常生活及び経済圏の拡大、大都市への産業人口の集中や過密過疎問題の発生更には住民の行政に対する要望の多様化、高度化等激しい変動期にあることが察知されるのであります。

これら諸情勢に対応して限られた財源の中で、行政水準の高度化と、住民福祉の向上を図るためには、場あつた行政で

（次ページにつづく）

○善人は若死にをする
著者 大西赤人

○遠ざかった明日
著者 芹沢光治

著者 山田風太
○やくざ対Gメン 著者 飯干晃一
○暮らしのヒント 著訳 深尾凱子
○お嫁さん入門 著者 金谷子都
○黒水仙の夫人 著者 北原武夫
○北越雪譜 著者 鈴木牧之
○ビジネスマン生活読本 著者 小池五郎
○拍手喝采

體協排

練習日 毎週火、木曜日
時間 夜七時より九時

皆さんへ、左記

に改定されます。
※ 郵便局から
土市局、下条局の電話は
一月十四日午後二時より土
局へ合併になり、土市局如
話は十日町局八局、下条局

に第一回目の児童手当が支給されました。

今回の支給は一月分と二月で受給者件数及び支給該児童数とは左記のとおりです。

一、被用者受給者件数 七十八件

二、非被用者 〃 十七件

三、公務員 〃 四件

四、支給該児童数 〃 四件

五、支給総額 六十二万円
(二ヶ月三千円)



新潟県警察本部
は、県民に愛され、
親しまれ、信頼され
る警察官を募集して
います。あなたの情
熱と若い力を郷土の
ためにつくしましよ
う。

◎採用人員

男子	五十名
女子	交通巡視官
若年者	

男女とも十八才以上二十八才未満の方

◎受験資格

◎學歷

高校卒業者また、高卒程度の学力のある方

◎受験申し込み受付期間

昭和四十七年三月一日から四月十日まで

◎その他

くわしんことは、もよりの整

◎産声

山田寿美子	樋口治美	桑原歩由美	井ノ川美佐子	鈴木さやか	服部和幸	清滝玲子	氏名
定雄	利治	鶴雄	和	国一	定行	満夫	父の名
角	白田	倉	田	重	如重	程	部

[illegible]

大島トミ	六五	牧畑
大島ユリ	六八	上山
奇藤フシエ	六二	通り山
大島リイ	三四	牧畑
鈴木シズエ	四四	下山
大島リカ	七五	荒屋

六才
 受の
 四
 の警
 お問

より負担額はやや均一化される
 ものと思われまふ。而し乍らこ
 れが理想的とは考えられない面
 もあるかと思われまふが、改正
 する初年度としてご理解いただ
 きたいのであります。

調整により十一月から百十円
 迄の引き上げ巾と相なりますが
 これによる収入見込額は前年
 度に比べ、全体としては十六・
 一%となり、引き上げ関係地区

小林秀朝	春雄	東田尻
山田幸雄	久夫	土倉
関沢直美	守	倉下
鈴木雄二	定雄	重地
斎藤隆之	宮吉	山崎

干溝の樋口さん
公民館に
座布団寄贈

田沢地区婦人会長樋口キミさん三溝は、昨年春に公民館に座布団三千枚を寄贈くださいました。これは亡き夫の奮闘返しにと寄贈されたもので、種々の会に使用させていただき皆さんから喜んでいただいております

昇天

新郎三三治男（四上山）
新婦井ノ川早苗（西本屋敷）

氏名 年令 部落
南雲トク （八〇） 倉下

(三面よりつづき)

に統一を図り、一定率による均一化を行つて、本来の使命を確立するために、関係条例の一部改正案を別途提出してあります。特に急激な料金の引き上げとならないよう、各地区毎の調整を行った結果、基本料金二百五十円未満の地区を二百五十円に、三百円の地区は据置きとし、十二の地区を三段階に区分することと致しました。これに

だけは、三六・二%のアップとなりまうので了解をいただきます」と存じます。

このように自己財源に恵まれず、厳しい財政下において、苦しい環境を切り抜け、明るい住みよい郷土の発展をめざし、努力を重ねてゆく決心でございまして、各各位の理解とご協力を切に希望をいたしまして説明を終ります。



児童手当の支給要件

七年度中に受益者の承諾をとりつけ、概要調査を完了する意向が明らかになったのであります。新聞紙等でご承知のとおり、新年度においては前年度に引き続き土地分類、土壌改良を目的とする調査、並びに水利の現況、基礎試験としての畑地かんがい試験などが行われ、農業計画や前年度調査の補正がなされる等であり、昭和四十七年度以降の調査方針は、清津川ダムを想定した畑地かんがい用地供給計画を進め、昭和四十八年度には、清津川ダムにタイミングを併せ、用地の調査とこれに伴う土地利用計画及び、工事計画等の修正を行って、基本計画が策定されることとなっております。国有林、特に水源涵養林の払い下げについては、容易ならざる困難が伴いますことは、悩みの種であります。

又既存農地の取り扱い、工業用水配分及び経費負担の問題、特にこの事業は未曾有の大事業であるため、かつて早稲や洪水による被害の体験をもつ地域住民の納得をとりつけるためにも相当の日時を要することが予想されます。又一面の農政と清津川ダム構想に対する政治的判斷は、固く知れない複雑さがあり、今後関係機関及び関係団体並びに地域住民との、密接なる連携により、将来の方向づけに

米作りを主体とするわが村にとって、急激なる作目転換は、容易ではありません。幸いにして昨年は、農地の基盤整備事業が倉庫及び本庫敷地内で行われたために、目標数量を上回る調整に協力できました。本年も団体の協力により、本年も団体の倉庫及び本庫敷地内での基盤整備事業を継続して実施する考えであり、事業量が昨年を下回ることも、農業所得の向上を図る上からも、この問題を解決するためには、養蚕、畜産及び作目転換等十分検討の上、これ等事業に対する資本の支出に対しては、財源の許す範囲において補助を続け、育成を図る考えであります。

わが村は、山林資源に恵まれているとはいえないが、その大部分が国有林であるため、直接住民の利益とはならず、民有遊林地及び雑木林地域の、有用樹林への転換や、或いは林産物の産地化を求め、観光と結びその育成をはかる共に、林道の開設、改良及び林業構造改善を進めて参りたいと考えております。苗場山麓総合開発については、先般十日町市において、北陸農政局計画課長、信濃川系調査事務所長等と話し、三市町村の農政特別委員が参加して、意見交換がなされました。それにより、中里村と十日町市が対象になる第一地区は、四十九年度に着手の計画であり、四十

害復旧関係では公共農地復旧二件のほか、道路河川各一件があり、近年災害の発生が頻りませんが、災害復旧事業は一応終了することになりますので、誠にこの機会にたいへん感謝しております。昨年中に四戸が他に移転し、残り六戸となり、また、この牧野部落は、地元住民の総意により、村の中心部への移転を強く希望しております。自己負担による住宅の建設が困難な状態にあるため、村営による農山村向け公営住宅の建設によりまして、住民の要望に応える考えであり、土地開発基金をもつて用地を確保し、一千万円を投じて本年建設に踏み切ったのであります。

産業振興対策については申し上げますが、国の米生産調整目標は、昨年に比べ県全体としては一〇％減になっておりますが、中里村では一〇％減となっております。これは開パイによる二百七、七ヘクタールの開田面積が削減されたためであり、目標数値も僅かに三十三ヘクタールに過ぎませんが、そのため比率が伸びた感があります。そのかわりふえた分は、政府米として買い入れ制限が県下最高の二十九、六％増となつておりますので、事情次第の可成り範囲においてご協力を戴きますよう、切にお願い致します。何れにしても

米作りを主体とするわが村にとって、急激なる作目転換は、容易ではありません。幸いにして昨年は、農地の基盤整備事業が倉庫及び本庫敷地内で行われたために、目標数量を上回る調整に協力できました。本年も団体の協力により、本年も団体の倉庫及び本庫敷地内での基盤整備事業を継続して実施する考えであり、事業量が昨年を下回ることも、農業所得の向上を図る上からも、この問題を解決するためには、養蚕、畜産及び作目転換等十分検討の上、これ等事業に対する資本の支出に対しては、財源の許す範囲において補助を続け、育成を図る考えであります。

わが村は、山林資源に恵まれているとはいえないが、その大部分が国有林であるため、直接住民の利益とはならず、民有遊林地及び雑木林地域の、有用樹林への転換や、或いは林産物の産地化を求め、観光と結びその育成をはかる共に、林道の開設、改良及び林業構造改善を進めて参りたいと考えております。苗場山麓総合開発については、先般十日町市において、北陸農政局計画課長、信濃川系調査事務所長等と話し、三市町村の農政特別委員が参加して、意見交換がなされました。それにより、中里村と十日町市が対象になる第一地区は、四十九年度に着手の計画であり、四十

児童手当の支給要件

◎十八才未満の児童が、三人以上で三子以降が五才未満の児童がいる方が該当します

七年度中に受益者の承諾をとりつけ、概要調査を完了する意向が明らかになったのであります。新聞紙等でご承知のとおり、新年度においては前年度に引き続き土地分類、土壌改良を目的とする調査、並びに水利の現況、基礎試験としての畑地かんがい試験などが行われ、農業計画や前年度調査の補正がなされる等であり、昭和四十七年度以降の調査方針は、清津川ダムを想定した畑地かんがい用地供給計画を進め、昭和四十八年度には、清津川ダムにタイミングを併せ、用地の調査とこれに伴う土地利用計画及び、工事計画等の修正を行って、基本計画が策定されることとなっております。国有林、特に水源涵養林の払い下げについては、容易ならざる困難が伴いますことは、悩みの種であります。

又既存農地の取り扱い、工業用水配分及び経費負担の問題、特にこの事業は未曾有の大事業であるため、かつて早稲や洪水による被害の体験をもつ地域住民の納得をとりつけるためにも相当の日時を要することが予想されます。又一面の農政と清津川ダム構想に対する政治的判斷は、固く知れない複雑さがあり、今後関係機関及び関係団体並びに地域住民との、密接なる連携により、将来の方向づけに

米作りを主体とするわが村にとって、急激なる作目転換は、容易ではありません。幸いにして昨年は、農地の基盤整備事業が倉庫及び本庫敷地内で行われたために、目標数量を上回る調整に協力できました。本年も団体の協力により、本年も団体の倉庫及び本庫敷地内での基盤整備事業を継続して実施する考えであり、事業量が昨年を下回ることも、農業所得の向上を図る上からも、この問題を解決するためには、養蚕、畜産及び作目転換等十分検討の上、これ等事業に対する資本の支出に対しては、財源の許す範囲において補助を続け、育成を図る考えであります。

わが村は、山林資源に恵まれているとはいえないが、その大部分が国有林であるため、直接住民の利益とはならず、民有遊林地及び雑木林地域の、有用樹林への転換や、或いは林産物の産地化を求め、観光と結びその育成をはかる共に、林道の開設、改良及び林業構造改善を進めて参りたいと考えております。苗場山麓総合開発については、先般十日町市において、北陸農政局計画課長、信濃川系調査事務所長等と話し、三市町村の農政特別委員が参加して、意見交換がなされました。それにより、中里村と十日町市が対象になる第一地区は、四十九年度に着手の計画であり、四十

害復旧関係では公共農地復旧二件のほか、道路河川各一件があり、近年災害の発生が頻りませんが、災害復旧事業は一応終了することになりますので、誠にこの機会にたいへん感謝しております。昨年中に四戸が他に移転し、残り六戸となり、また、この牧野部落は、地元住民の総意により、村の中心部への移転を強く希望しております。自己負担による住宅の建設が困難な状態にあるため、村営による農山村向け公営住宅の建設によりまして、住民の要望に応える考えであり、土地開発基金をもつて用地を確保し、一千万円を投じて本年建設に踏み切ったのであります。

産業振興対策については申し上げませんが、国の米生産調整目標は、昨年に比べ県全体としては一〇％減になっておりますが、中里村では一〇％減となっております。これは開パイによる二百七、七ヘクタールの開田面積が削減されたためであり、目標数値も僅かに三十三ヘクタールに過ぎませんが、そのため比率が伸びた感があります。そのかわりふえた分は、政府米として買い入れ制限が県下最高の二十九、六％増となつておりますので、事情次第の可成り範囲においてご協力を戴きますよう、切にお願い致します。何れにしても

米作りを主体とするわが村にとって、急激なる作目転換は、容易ではありません。幸いにして昨年は、農地の基盤整備事業が倉庫及び本庫敷地内で行われたために、目標数量を上回る調整に協力できました。本年も団体の協力により、本年も団体の倉庫及び本庫敷地内での基盤整備事業を継続して実施する考えであり、事業量が昨年を下回ることも、農業所得の向上を図る上からも、この問題を解決するためには、養蚕、畜産及び作目転換等十分検討の上、これ等事業に対する資本の支出に対しては、財源の許す範囲において補助を続け、育成を図る考えであります。

わが村は、山林資源に恵まれているとはいえないが、その大部分が国有林であるため、直接住民の利益とはならず、民有遊林地及び雑木林地域の、有用樹林への転換や、或いは林産物の産地化を求め、観光と結びその育成をはかる共に、林道の開設、改良及び林業構造改善を進めて参りたいと考えております。苗場山麓総合開発については、先般十日町市において、北陸農政局計画課長、信濃川系調査事務所長等と話し、三市町村の農政特別委員が参加して、意見交換がなされました。それにより、中里村と十日町市が対象になる第一地区は、四十九年度に着手の計画であり、四十